

赤い靴通信 402号


コラムというのは円柱と言う意味ですが、勝手な時に勝手なことを書くのもコラムです。一環したのも無いので気が楽なことでもありません。私もそれに乗じて前月は60年前のこと、今度は今月のことです。「第33期ジュニアコーラス定期演奏会」について、「まだ33年」「もう33年」と人によって見方は違いますが、第1期生は皆40歳代になっていきます。今年の定演は6月28日に杉田劇場で予定していましたが、中止・延期を重ね、結局9月12日に横浜

市開港記念会館での開催になりました。コロナ禍の中でレッスンも沢山の工夫がありました。先生方の動画配信授業を入れ、スタジオでは、マスクやフェイスシールドを付けてのレッスンを日常化したしました。そして、本番は文化財の建物と言えども余り広くないステージです。ソーシャルディスタンスを守りながらの先生方の演出で、お顔の表情が見えるようにとマウスシールドを着用いたしました。様々な懸念は払拭され、素晴らしい歌声は、会場の皆さま、お一人お一人にしっかりと届いたようです。ご家族の方から「よくやりましたね」と非常に好意的なお褒めをいただき涙を禁じ得ませんでした。団員たちの声を聴いて目を閉じると景色が見えてきます。みんな一生懸命で歌っているんですね。よく伝わりました。先生方のご指導や選曲の良さを感じました。横浜☆男声合唱団の歌声はこども達の定演への温かいエールでした。客席から見た並びも美的で斬新さがあったバランスもとれていました。この日の環境を最大限に活かした定演を嬉しく思います。


音楽には心を浄化する力があると云われます。音楽療法を唱えたシユタイナは、音楽の三要素にこのように述べています。メロディーは脳に作用する。リズムは手足の運動や血液の循環、物質代謝を左右する。リズムは手足の運動や血液の循環を左右する。病気とはこの三者のバランスが崩れることですから音楽は偉大な力です。健常者はそれを利用して心身の健康を高い水準で維持することが出来るのです。音楽は日常生活のビタミン剤そのものと言われている。

さて、私自身のこどもの頃は、弱虫で怖がりでした。雷が鳴ると弟や妹よりも早く布団に潜り込み震えているのです。一緒に住んでいるおばあちゃんが、「クワバラ、クワバラと言え雷は来ないよ」と言うのです。それはある時、雷の子がクワバラ村のお寺の井戸に落ちたのです。村人はすぐ井戸に蓋をして逃げたのです。雷の親が来て「逃がしてくれ、返してくれ、そうすればこのクワバラ村に雷が来ないようにするから」というのです。それで大きい声で「クワバラ」と言えば落ちないと聞きました。しかしあまりにも私の臆病を心配した家族がハワイにいます。お婆ちゃんのこと、日本へ帰ってき来たときに私のことを相談したそうです。「これは病気だ、男の子がこのようじゃ将来思いやられる」と嘆いたようです。大正期におばあさんのいことがイギリス人と結婚してハワイに住み、たまに日本に帰ってくるのです。ちなみに私の春の名はそのイギリス人がつけたのです。日本にいる間、私の家の2階に住んでいたのですが。土砂降りのある日、その老夫婦が私を雨の中、物干し場兼ベランダに押し出し、中から鍵を掛けたのです。私は大声で泣き叫びました。雨は激しくなり、雷は容赦なく光り、真上で炸裂したようです。「助けて」そんな声はだ

今後のスケジュール



★10/9(金) 延期開催
横浜シネマパラダイス
～懐かしいヨコハマの風景と
流行の映画音楽～
横浜みなとみらい大ホール
15:00(14:20 開場)
新日本フィルハーモニー
ナビゲーター：池辺晋一郎(作曲家)、
ドラマトウルク：中村高寛(映画監督)、
ゲスト：松永 春(赤い靴事業団・団長)



★10/17(土)・10/18(日)
オペラ「トウランドット」
神奈川県民ホール・大ホール
14:00 開演
出演：赤い靴ジュニアコーラス
※赤い靴関係者割引があります



9月12日(土)「第33期赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会」を開催することができました

れにも届きません。私は雨の中倒れて耳をふさぎました。しかし、その中でも閃光と音は待ったなしです。そのうち雷も少し遠くに行ったようです。もう抵抗する力も無いのです。やがてその老夫婦は鍵を開け、倒れている私をタオルで包んで風呂場でシャワーを浴びせ着物を着せてくれました。私は恐怖のため口もきけませんでした。祖母は、あまりひどいことをするのを見て涙を流していました。しかし、「イギリスでは、しつけのためにもってひどいことをするよ」と老夫婦は言っていました。再びベランダにつれて行かれた時、素晴らしい虹を見たのです。あの光と音の激しいショーとは違う、静かな彩りが私を変えたようです。このきっかけで横浜博覧会のYES大ホールで公演したミュージカル「空飛ぶ 赤い靴」が生まれました。「虹は丸いか？半円か？」というレインボー博士の問いかけが、世界中を訪ねる冒険の旅の一大ページェントを緑り広げました。出演者250人の公演は圧巻でした。

雨と雷を浴びたその後は度胸試しの夜の外人墓地一人歩きです。焼かず石の棺に埋葬されているのでリンが燃えるのですが、この頃にはそんなことは気にならず平気になりました。後年、飛行学校に入學したと聞いた叔父が、「嘘だろうあの弱虫がよく行ったもんだ」と言ったそうです。私がよく引き合いに出す日本航空の初代会長松尾善磨さんの「臆病者と言われる勇気を持つ」は好きな言葉です。細心の注意は臆病者の特権です。約一年でグライダーを100回以上操縦し、また5メートルの高さの横木の上で片足立ちで両手を上げる特技では学校でNO1になりました。台湾で峡谷にかかる蕨の一本橋を渡りましたが、見ていて怖かったと言っていました。これはかつての臆病者を格好で人に感じさせないように振る舞っていただけなのです。

そして、9月21日に関内大ホールで「中区ダンスフェスティバル」を開催しました。何人かの方から止めた方がいいのではとのご忠告がありました。横浜市の劇場ガイダンスを遵守して、最善の工夫をし、参加者全員が納得する方法で前進いたしました。フェスティバルの前日、横浜スタジアムの野球観客数が5000人から13,000人、OKのニュースが流れました。今回参加された方からはあきらめかけていた夢が実現したと感謝の言葉を頂きました。この行事も無事に好評の裡に終えられ、本日も報告できて、ほっとしております。まだまだお互いに「臆病者と言われる勇気を持ちましょうね。」

2020・9・30 団長 松永 春